

はじめに

「持続可能な開発のための教育の10年」が2005年1月から開始され、国や自治体、NGO等を中心に、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進活動が全国的に進められている。ESDの周知普及は、わが国の実施計画の中でも初期段階の重点事項として特に強調されており、平成20年3月、21年3月の小中学校および高校の学習指導要領改訂に際してESD：持続可能な社会の重要性が明記されたこと、ユネスコスクール制度を活用して学校教育におけるESDの推進が図られたこと等により、平成23年1月には、全国で279の、北陸では33のユネスコスクールが認定される等、近年その普及が進みつつある。ユネスコスクールを中心とした学校におけるESDの普及は今後ますます進むと考えられるが、他方で、急速なユネスコスクールの増大に伴い、ユネスコスクールにおけるESDの質を確保することが重要な課題になりつつある。

北陸をはじめとして各地の学校では、地域や学校の特性に応じた様々な工夫がなされている。そのような経験を共有することにより、まだ新しい試みといえるESDの質の向上に大きく貢献することができると考えられることから、本事業の一環として、北陸においてESDと考えられる教育の実践事例をモデル事業として取りまとめることとした。本報告書(事例集)においては、以下の4校における事例を取りまとめるとともに、より広範に一般の方々にESDを周知普及するために金沢市および富山市で開催したESDシンポジウムの資料を取りまとめている。

北陸におけるESD実践事例

- ◇ 石川県金沢市立戸板小学校
- ◇ 富山県富山市立寒江小学校
- ◇ 富山県富山市立中央小学校
- ◇ 福井県坂井市立鳴鹿小学校

ESDシンポジウム資料

- ◇ ESD 石川シンポジウム
- ◇ ESD 富山シンポジウム

本報告書・事例集が、今後の北陸および全国におけるESD活動の推進に資することを願うものである。

平成23年3月

大学コンソーシアム石川ESD推進連絡協議会
鈴木 克徳（金沢大学教授）

目 次

I 北陸におけるE S D実践事例

1. 石川県金沢市立戸板小学校 1頁
人・もの・こととかかわりながら学ぶ
2. 富山県富山市立寒江小学校 13頁
寒江のよさを知り 寒江のよさを未来に残そう
3. 富山県富山市立中央小学校 29頁
持続可能な社会づくりのための教育を目指して
4. 福井県坂井市立鳴鹿小学校 45頁
環境教育の取組み

II E S Dシンポジウム資料

1 E S D石川シンポジウム

- (1) プログラム 65頁
- (2) 基調講演1：トキの復活から未来へ 67頁
いしかわ動物園長 美馬 秀夫
- (3) 基調講演2：生物多様性と生きものの保護，私たちの生活 73頁
環境省自然環境局野生生物課野生生物専門官 大林 圭司
- (4) パネルディスカッション
 - ① 津幡高等学校におけるE S Dの取組み 83頁
一ふるさと石川の“朱鷺の里”づくりー
石川県立津幡高等学校教諭 松井 元雄
 - ② 津幡高校“朱鷺サポート隊”の軌跡 89頁
石川県立津幡高等学校教諭 松井 元雄
 - ③ 戸板小学校におけるE S Dの取組み 91頁
金沢市立戸板小学校校長 野村 豊

2 E S D富山シンポジウム

- (1) プログラム 95頁
- (2) 基調講演：呉羽丘陵で取り組む持続可能な社会づくり 97頁
富山市ファミリーパーク園長 山本 茂行
- (3) パネルディスカッション：悠久の森事業とは 99頁
呉羽丘陵「悠久の森」総合プロデューサー 小林 福治